徳川園
管理運営方針

パークマネジメントプラン

◆公園の特性を生かした公園経営の推進◆

令和２年 10 月

名古屋市緑政土木局

徳川園のめざす公園像

近世武家文化を中心に世界に発信する
歴史文化拠点である公園

- 多くの文化遺産を有効に活用し、市民を始め広く世界に向けて、その文化的価値を発信する公園。
- 徳川美術館とともに、近世武家文化を主とした、歴史性を体感できる公園。

目次

基本事項 1

1.公園の概要

1-1.徳川園の概要 2
（1）概要 2
（2）行政計画上の位置づけおよび指定等 4

1-2.沿革 11

1-3.立地環境 12
（1）自然状況 12
（2）周辺状況 12

1-4.整備時の方針および内容 14
（1）整備当初の基本方針 14

1-5.施設状況 16
（1）施設概要 16
（2）利用時間および料金 23
（3）景観 23

1-6.利用状況 24
（1）利用実績 24
（2）主な行事 26
（3）利用者の意見 27
（4）利用・運営上の課題 27
（5）協働 27

1-7.公園の基本的な性格・役割 29
（1）特長の分析 29
（2）公園経営の現況評価 30

2.めざすべき姿と取り組みの方針

2-1.公園がめざすべき姿 31
（1）めざす公園像 31
（2）徳川園のイメージ 31

2-2.取り組みの方針 32
（1）公園経営の目標設定 32
（2）ゾーン別特性 33
（3）維持管理の方針 34
（4）景観形成の方針 34
（5）運営管理の方針 34
（6）連携・協働の方針 35
（7）改修・再整備の方針 35
（8）災害対応の方針 36

公園管理運営方針　基本事項

公園管理運営方針（パークマネジメントプラン）は、平成 24 年 6 月に公表された「公園経営基本方針」及び、平成 25 年 7 月に公表された「公園経営事業展開プラン」に基づき、今後 10 年程度を計画期間として公園の管理運営の方針等を定めるものです。

この方針では、徳川園の性格、役割、立地条件や公園としてのあゆみ、利用者の動向などを踏まえて、めざす公園像を設定し、その実現にあたっての取り組みの方針を定めました。

管理者、利用者、事業者等は、このプランで示す各方針に即して、本公園における管理運営や利活用の促進を、それぞれの立場で行っていくものとします。

なお、本方針については、マネジメントサイクルで行う評価の結果や、周辺の都市基盤整備状況、技術動向、財政見通しなど社会経済情勢の変化等により対応が必要となった場合には、適宜見直しを行っていくものとします。

「名古屋市の公園経営」とは…

従来の行政主導による維持管理中心の公園管理から脱却し、利用者志向、規制緩和等による市民・事業者の参画の拡大、多様な資金調達とサービスへの還元、経営改善手法の導入など、公園の利活用の発想により公園の経営資源を最大限に活用していく新たな管理運営の考え方です。

名古屋市においては、市民ニーズを考慮した公園経営を第一とし、公園を「市民の資産」としてとらえ、多くの人々の関わりの中で、市民全体が公園経営の成果を享受できるように「管理する資産」から「経営する資産」へと公園の管理運営のあり方を大きく変革していくものです。

■市民・事業者・行政の Win-Win の関係

1.公園の概要

1-1.徳川園の概要

(1)概要

開園年度	昭和 7 年
都市公園法による設置	昭和 31 年 10 月 15 日
公園面積	4.53ha（日本庭園：2.3ha）
所在地	名古屋市東区徳川町地内
公園種別	地区公園
都市計画決定	年度　昭和 22 年 5 月 6 日
	番号　8･4･1 号（特殊公園）
	面積　4.5ha

徳川園平面図

【位置】

名古屋城本丸の東約３ｋｍに位置している。

位置図

【交通】

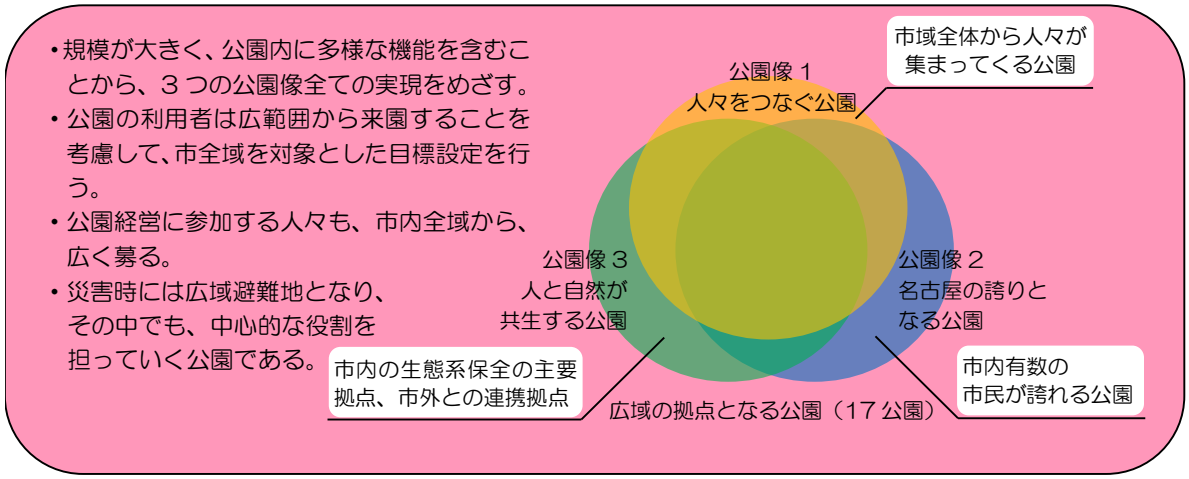
地下鉄名城線	「大曽根」駅
ＪＲ中央線	「大曽根」駅
名鉄瀬戸線	「森下」駅
市バス	「徳川園新出来」
名鉄バス	「徳川園新出来」
なごや観光ルートバス メーグル	「徳川園･徳川美術館･蓬左文庫」

(2)行政計画上の位置づけおよび指定等

■広域の拠点となる公園

事業展開プランの中で、公園の面積規模や公園利用者の広がりを考慮して 3 つに分類された公園体系のうち、「広域の拠点となる公園」として位置づけられている。「広域の拠点となる公園」（市内 17 公園）とは、規模が大きく、広範囲（市内及び市外）の利用者が見込まれる総合公園、運動公園、特殊公園を指している。

【広域の拠点となる公園】



※名古屋市公園経営事業展開プラン（H25.7）

■名古屋市歴史まちづくり戦略（平成 23 年 7 月　名古屋市）

＜概　要＞

・地域の歴史的資源を活かした魅力的な都市環境の維持・形成に向けて、「歴史分野に関するまちづくりの基本方針」として策定。
・次の 100 年（開府 500 年）を見据えつつ、おおむね 20 年後（2030 年）に向けた取り組み

＜実現に向けた戦略（徳川園関係分）＞

戦略Ⅰ　尾張名古屋の歴史的骨格の見える化

方針１　名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承

（２）　城下町における界隈の特色を活かしたまちづくり

・碁盤状の町割を継承する城下中心部をはじめ、旧武家地、旧町人地、旧寺町などの歴史的な界隈において、地域の歴史的資源を活かした特色あるまちづくりを推進する。
・徳川美術館及び蓬左文庫、大名庭園の歴史を引き継ぐ徳川園を含めた施設全体の歴史的環境の整備を推進するなどし、文化・観光施設としての魅力向上を図る。

■名古屋歴史的風致維持向上計画（平成 26 年 1 月　名古屋市）

＜概　要＞

・本市の歴史まちづくりを具体的に進めるため、歴史まちづくり法（地域における歴史的な風致の維持及び向上に関する法律）に基づいて名古屋市が策定。
・計画期間は平成 26 年度から平成 35 年度まで。

＜整備又は管理に関する基本的な考え方（徳川園関係分）＞

・徳川園は、地域における歴史的風致の維持及び向上に寄与する歴史的風致維持向上施設。

・整備又は管理については、名古屋の維持向上すべき歴史的風致の１つ、「名古屋城と名古屋城下町を舞台に展開した祭礼に見られる歴史的風致」を維持向上するため、上位・関連計画との連携を図りながら、建造物の修理・復元や周辺環境の整備、市民への啓発等に取り組んでいく。

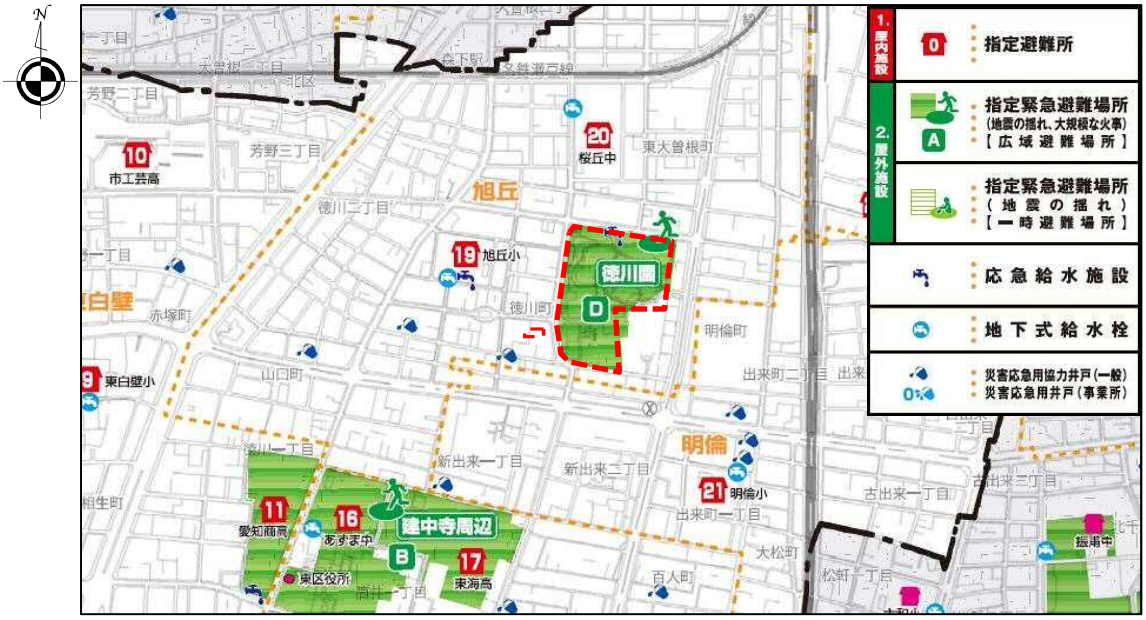
＜歴史的風致維持向上施設の整備又は管理に関する事業＞

歴史的風致の維持向上に資する周辺環境の整備及び管理

事業名	徳川園の管理運営
事業概要	徳川園は、尾張藩二代藩主光友の隠居地を起源とし、昭和6年（1931年）、邸宅と庭園が十九代当主義親から名古屋市に寄付された。戦災などを経て、市では平成13 年から再整備を行い、平成16 年秋に日本庭園としてリニューアルした。 園内には、二代藩主光友（瑞龍院）や「虎狩りの殿様」と呼ばれた十九代当主義親にちなみ、「龍仙湖」、「瑞龍亭」、「虎仙橋」などの名所がある。 今後も歴史文化拠点として、隣接する名古屋市蓬左文庫、徳川美術館（徳川黎明会）とともに近世武家文化を国内外に発信していく。
事業が歴史的風致の維持向上に寄与する理由	徳川園では、毎年6 月に行われる筒井町と出来町の天王祭にあわせて 5 輌の山車揃えが行われており、名古屋城下の華やかな祭りを現代に再現する場となっている。また、名古屋市蓬左文庫、徳川美術館には、尾張徳川家に伝来した貴重な書跡・典籍や美術品が収蔵・展示されている。徳川園を良好に管理運営していくことで、歴史的建造物の保全と活用が図られ、歴史的風致の維持向上に寄与する。

■広域避難場所

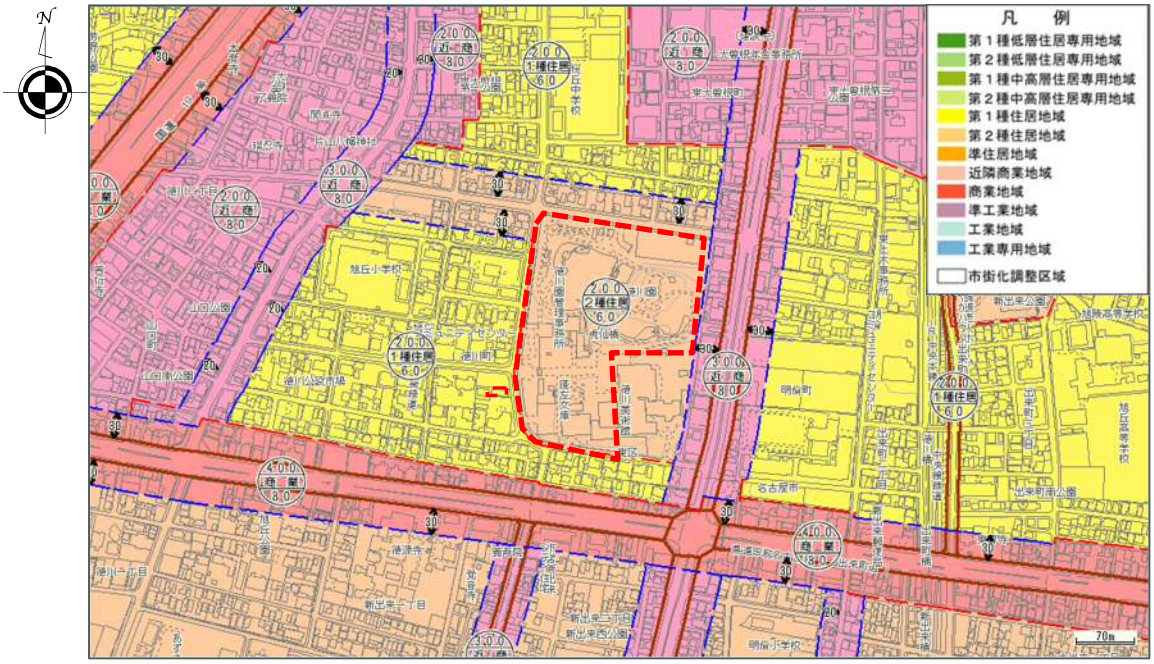
名古屋市地域防災計画の中で、徳川園は、広域避難場所として指定されている。広域避難場所とは、主として地震火災が延焼拡大した場合に、周辺地域からの避難者を収容し、避難者の生命を保護するための場所である。



「あなたの街の地震ハザードマップ　東区（平成 26 年 3 月発行）」を加工して使用

■用途地域

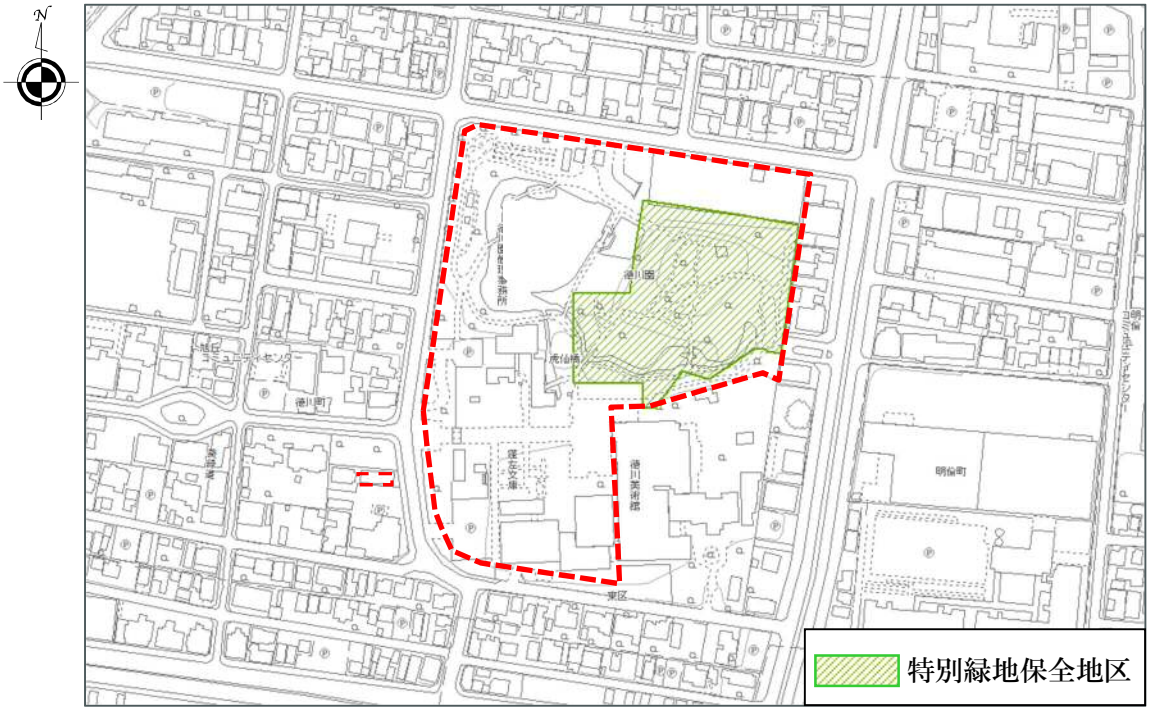
公園は第 2 種住居地域、周辺は第 1 種住居地域または準工業地域となっている。



「名古屋都市計画基本図（平成 27 年）」を加工して使用

■特別緑地保全地区

徳川園の一部は、都市緑地法に基づいて、都市計画で特別緑地保全地区に指定されている。特別緑地保全地区とは、良好な自然環境を保っている都市内の樹林地や草地、水辺地などを現状凍結的に保全を図ろうとするものである。



「名古屋都市計画基本図（平成 27 年）」を加工して使用

■史跡散策路

東区の史跡散策路の「武家屋敷散策コース」は、徳川園周辺を廻るルートとなっている。

史跡散策路マップ

■文化のみち

名古屋の近代化の歩みを伝える歴史的な遺産を徳川園に至る地区一帯の「文化のみち」として育み、イベントの実施や、貴重な建築遺産の保存・活用をすすめている。

文化のみちマップ

1-2.沿革

元禄 8 年（1695 年）	徳川御三家筆頭である尾張藩第二代藩主光友が、自らの隠居所として大曽根下屋敷を造営。 光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られた。
明治 22 年（1889 年）	尾張徳川家の邸宅となる。
昭和 6 年（1931 年）	名古屋市は、第十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付を
3 月 25 日･6 月 27 日	受けた後、改修整備を実施。
昭和 7 年（1932 年） 11 月 3 日	「徳川園」として有料で一般公開。
昭和 21 年（1946 年） 4 月 1 日	徳川園を葵公園と改称。戦後、現代的な都市公園として改修し、市民に利用される。
平成 4 年（1992 年）	第 2 次名古屋市推進計画に徳川園整備事業として位置づけられる。
平成 10 年（1998 年）	蓬左文庫の整備を含む「徳川園整備基本構想」成立。 設計者選定のためのプロポーザルの実施と基本計画策定
平成 13 年（2001 年）～	再整備の開始。以前からあった野球場、プールの廃止。 図書館は大幸南一丁目に移転。
平成 16 年（2004 年）11 月 2 日	日本庭園オープン
平成 22 年（2010 年）	指定管理制度導入。
平成 23 年（2011 年）7 月	「名古屋市歴史まちづくり戦略」策定
平成 26 年（2014 年）1 月	「名古屋歴史的風致維持向上計画」策定
平成 26 年（2014 年）8 月	「徳川園管理運営方針」策定

1-3.立地環境

(1)自然状況

【地形】

南側から北側にかけて低くなる段丘状の地形で、東側、特別緑地保全地区部分は標高約 20m の山部分と標高約 10mの谷部分の起伏ある樹林地となっている。

【植生】

緑地保全地区はシイを中心とした植生となっており、その他サカキ、モチノキ、アラカシ、クロガネモチといった樹種が混在する自然樹林を形成している。また園内には、クスノキ、イチョウといった大径木が、この付近の景観を形成し、中小径木としてはアオキ、モッコク、モミジなど多種にわたり、四季の表情を伝える樹木が植栽されている。

(2)周辺状況

周辺は閑静な住宅街となっており、江戸時代の武家屋敷のたたずまいが今に伝わる良好な居住環境である。この地区は、都市計画法上の第 2 種住居地域に属し、近年は中層建築物が建設可能な状況にある。園の南側約 100mには、県道・田籾名古屋線があり、商業地区を形成している。北側約 300mには、名鉄瀬戸線が、東側約 300mには JR 中央線がそれぞれ通っている。

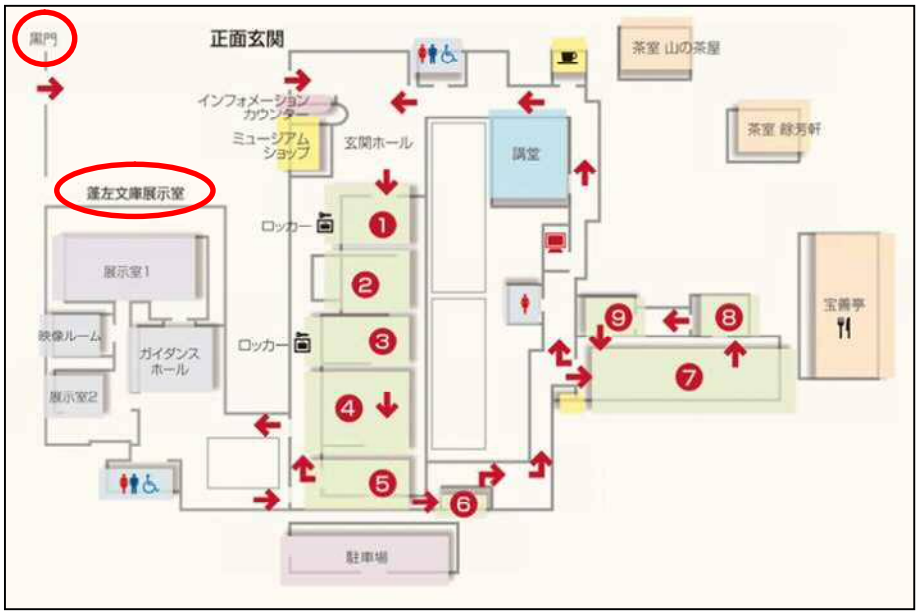
周辺状況図

「都市計画写真地図」を加工して使用

【徳川美術館】

源氏物語絵巻などの国宝、尾張徳川家の大名道具の所蔵・展示で全国的に知られる徳川美術館が、都市公園区域南東に隣接している。

隣接する施設であるが、蓬左文庫とは展示室でつながり、前庭は日本庭園、蓬左文庫と共有し、連携した利用がなされており、密接な関わりをもつ。



徳川美術館館内図

1-4.整備時の方針および内容

(1)整備当初の基本方針

《平成 10 年度 徳川園整備基本計画(名古屋市農政緑地局・名古屋市教育委員会)》

基本コンセプト「近世武家文化を中心に表現し、世界に発信する歴史文化拠点」

徳川園および隣接する徳川美術館は、尾張徳川家のすぐれた文化遺産を所蔵する文化施設を有し、かつ歴史的に由緒ある、名古屋にとって貴重な歴史文化拠点である。多くの文化遺産を有効に活用し、市民を始め広く世界に向けて、その文化的価値を発信するとともに、園内一帯が近世武家文化を中心に表現され、歴史性が体感できる公園の整備を行う。

【整備の視点】

- 徳川美術館と蓬左文庫を核とした整備
- すぐれた文化拠点にふさわしい庭園の整備
- 地域住民の利用にも対応できる施設の整備
- 来園者の利便やサービスを図る施設の整備

【日本庭園の方針】

徳川園は大曽根下屋敷跡に位置する尾張徳川家にゆかりのある場所である。庭園整備にあたっては、当時の庭園復元も考慮されたが、遺構が少ないこと、敷地の現況、周辺環境、さらには徳川園全体としての維持管理・運営の状況等から判断し、名古屋城二の丸庭園、三の丸庭園や尾張藩江戸屋敷の文献・資料を念頭においた歴史文化的な創作を行うこととした。

庭園の形式は、近代武家文化の庭園の基本ともいえる池泉回遊式とした。作庭にあたり、伊藤邦衛氏の監修のもと、日本の風景に見られる海、山、里の描写をテーマとしながら、自然の景色を凝縮し、時には強調して表現するといった手法で景観づくりを進めた。矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、緑地保全地区であるスダジイの森を背景に、立体的に迫る力強い大きな石組みと植栽を組み合わせることで、2.3ha の敷地にもかかわらず、変化に富んだ景観を劇的に展開させた。

《平成 11 年度 徳川園整備基本設計書(名古屋市農政緑地局・名古屋市教育委員会・名古屋市建築局)》

徳川園整備基本計画をもとに、ゾーニング、諸施設と植栽の基本方針を定め、庭園の技術管理を整理した。

【整備・説明会】

整備事業費は、緑政土木局分が 27 億円で、教育委員会分を含めた総事業費は 44 億円であった。整備にあたっては、地元住民の理解を得るため、着工前に説明会を 18 回実施した。着工後には現地見学会や集会も機会があるごとに開催したり、要望等への対応にも真摯に対応するなど地元をあげて協力を得られるよう十分に配慮した。

1-5.施設状況

(1)施設概要

■日本庭園

日本庭園は、矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、既存の照葉樹の森、立体的に迫る大きな岩組みが特徴で、変化に富んだ景観を劇的に展開する構成としている。

徳川園平面図

【施設概要】

1）龍門の瀧（りゅうもんのたき）
鯉が滝を登りきって竜となったという登竜門伝説に基づく滝の一形式。かつて尾張家下屋敷（戸山屋敷）にあった「鳴鳳渓」を構成する龍門の瀧を再現したもので、実際に発掘された遺構の石材を使用し、下流の飛石を渡りきると水かさが増して飛石が水中に没するという趣向にちなんだしかけも取り入れている。

2）龍仙湖（りゅうせんこ）
海に見立てた水面の周りに見どころを配する池泉回遊式庭園の中心的存在で、地下水を水源としている。黒松を背にして浮かぶ島々、巨石に懸かるもみじ、水際を渡る飛石、突き出す砂嘴、舟小屋のある渡し場などを巡りながら楽しむことができる。

3）西湖堤（せいこてい）
古くから文化人の憧れの景勝地である中国杭州の西湖の湖面を直線的に分ける堤防を縮景したもので、異国情緒を日本庭園の中に取り入れている。

4）瑞龍亭（ずいりゅうてい）
光友の諡號「瑞龍院」から名づけられた小さな茶室で、龍仙湖の彼方に西湖堤を眺望することができる。

5）虎の尾（とらのお）
深山幽谷の山水画を思わせるような渓谷美を表現しており、初夏には新緑、秋には紅葉が美しく彩る。

6）虎仙橋（こせんきょう）
虎の尾に架かる檜造りの木橋で、5m下に渓流を見下ろし、下流に龍仙湖を望む。

7）大曽根の瀧（おおぞねのたき）
虎の尾を上りきると到達する落差 6mの三段の滝。上、中、下段の岩の組み方が異なるため、それぞれ水しぶきの表情には変化がある。滝の背後の山は徳川園の中で最も高く、龍仙湖水面との標高差は約 11mある。

8）四睡庵（しすいあん）
梅や桃の木に囲まれた休み処で、隠れ里のような風景の中にぽつりと立っている。

9）牡丹・菖蒲園
百花の王、牡丹といえば徳川園と言われるほど市民に親しまれる存在となっており、55 種 1,000 株の牡丹が鑑賞できる。菖蒲園は、28 種 1,700 株を上・中・下段の 3 枚田で栽培している。江戸で二代藩主光友が花菖蒲を最初に栽培したとも言われており、当時を偲ぶ古くから親しまれている江戸系、長井古種を栽培している。

■エントランス

来園者へのサービスを考慮したビジターセンター（観仙楼、蘇山荘、売店）及び各種イベント開催などを目的とした広場、牡丹園からなり、来園者が最初に訪れるシンボル性の高い空間である。

【施設概要】

1）黒門（くろもん）

明治 33 年（1900）に完成した尾張徳川家の邸宅の遺構で、総けやき造りの三間薬医門。連続する脇長屋と塀を含めて、昭和 20 年（1945）の大空襲による焼失の被害を免れた数少ない遺産であり、武家屋敷の面影を伝える貴重な建造物群となっている。平成 26 年 10 月、国の登録有形文化財へ登録。

2）観仙楼（かんせんろう）

龍仙湖に面する二層の建物で、庭園を望むことができる。上階は徳川園にあう質の高いサービスを提供するレストランを備え、下階はホールとしてさまざまなイベント等に活用されている。

・レストラン

面積：135 ㎡、収容人員：着席 50 名

ガーデンレストラン　徳川園　（フレンチレストラン）

平均利用金額	（ディナー）平日：13,000 円	土日祝：16,000 円
	（ランチ）　平日：　5,000 円	土日祝：　7,500 円
主なメニュー	（ディナー）コース：8,000 円～	
	（ランチ）　平日：3,000 円～、土日祝：5,500 円～	

【令和２年８月】

・ホール

面積：161 ㎡、収容人員：着席 100 名・立食 120 名・スクール 100 名・シアター150 名

３）蘇山荘（そざんそう）

汎太平洋博覧会（昭和 12 年）の迎賓館を移築した歴史的建造物
平成 26 年 10 月、国の登録有形文化財へ登録。昼は喫茶、夜はバーとして利用。

面積：30 坪、収容人員：着席 30 名

和カフェ（バー）　蘇山荘
平均利用金額　（ランチ）1,200 円
主なメニュー　名古屋ハヤシライス、天むすと飛騨おこわ、
白玉ぜんざい、アイス最中
ドリンク、アルコール飲料

【令和２年８月】

４）売店

遠方からの来園者に向けて地元名産品なども取り揃えるほか、伝統工芸品から和菓子まで、日本の武家文化の発信拠点にふさわしいテーマ性を備えたミュージアムショップ。

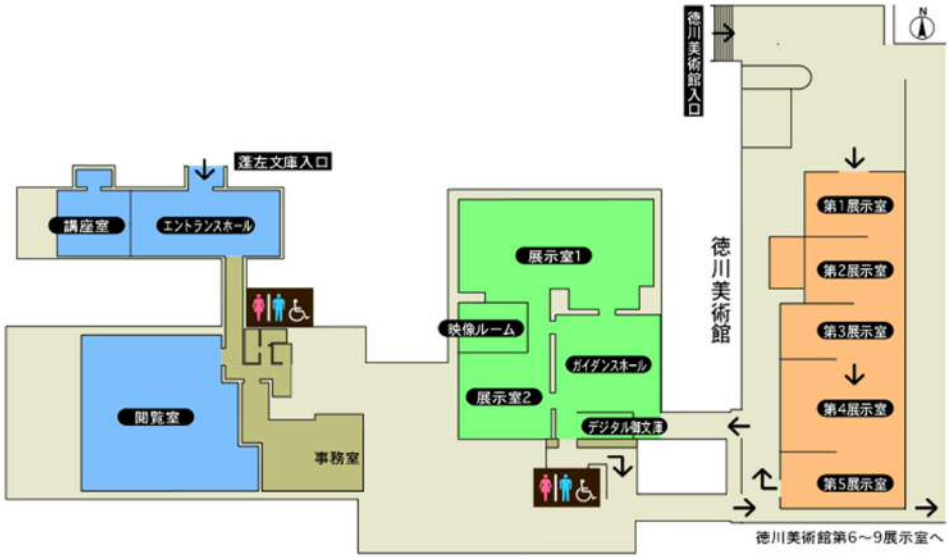
５）脇長屋

明治 33 年（1900 年）ごろ建築で、連続する黒門と塀を含めて武家屋敷の面影を伝える貴重な建造物群を構成している歴史的建造物。平成 26 年 10 月、国の登録有形文化財へ登録。指定管理者の管理事務所として使用している。

■蓬左文庫 （設置許可 教育委員会）

尾張徳川家の旧蔵書を中心に和漢の優れた古典籍を所蔵する公開文庫である。現在の蔵書数は、約 12 万点。蔵書内容の豊富さが蓬左文庫の特徴となっている。さらに、書籍だけではなく、尾張徳川家に伝えられた 2 千枚をこえる絵図も所蔵しており、名古屋の城下図から世界図におよぶ古地図や、屋敷図・庭園図など、多彩な内容の絵図が含まれている。

蔵書の閲覧のほかに、徳川美術館の大名道具と合わせて、武家の学問と教養など、近世武家文化をわかりやすく紹介する展示や、徳川美術館・徳川園と連携した講演会などを企画開催している。



蓬左文庫　館内地図

【施設概要】

1）エントランスホール

昭和 58 年まで蓬左文庫の書庫として使用していた建物（明治 33 年新築、昭和 10 年改築）を曳屋して玄関ホールに再利用している。
平成 26 年 10 月、国の登録有形文化財へ登録。
「河内本源氏物語」などの代表的蔵書の複製展示とともに、2 階部分に再現された和装本の収蔵の様子も見ることができる。

2）映像ルーム

千年の時を越えて読み継がれてきた「源氏物語」の魅力をハイビジョン映像（11 分）で紹介している。

3）閲覧室

閲覧室内の書架（15,000 冊収容）にある参考図書は自由に閲覧できる。書庫内の資料は、検索・閲覧システムを使って閲覧請求が可能。

4）展示室 1

書物だけでなく、大名道具も展示できる展示室。

5）展示室 2

所蔵の大型絵図が展示できる設備を備えている。

蓬左文庫の展示室は、連絡通路によって徳川美術館と一体化され、かつて武家屋敷の建築様式であった書院造をデザインコンセプトとして徳川美術館や他の園内建築物との調和が図られている。

(2)利用時間および料金

【徳川園】

開園時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時 30 分（入園は午後 5 時まで）

休園日　：毎週月曜日（休日にあたるときは直後の平日）

休園日　：年末年始（12/29～1/1）

	種別	1 人 1 回	団体(20 人以上) 1 人 1 回	団体(100 人以上) 1 人 1 回	定期観覧券(1 年)
入園料	大人	300 円	270 円	240 円	1,200 円
	高齢者	100 円	90 円	80 円	400 円

※名古屋城との共通券　大人 640 円、高齢者 160 円

※白鳥庭園との共通券　大人 480 円、高齢者 160 円

※徳川美術館･蓬左文庫との共通観覧の場合の徳川園入園料　大人 150 円､高齢者 50 円

※高齢者とは市内在住 65 歳以上の方。

【駐車場】

駐車場名	面積	収容台数	供用期間	供用時間	料金
徳川園 駐車場	約 3,000 ㎡	大型　3 台 普通　77 台 身障者 2 台	1/2～12/28 ただし徳川園の 休園日は閉場	9:15～18:00	普通車 120 円/30 分 大型車 最初の 1 時間 500 円 以降 500 円/30 分
徳川園 南駐車場	約 900 ㎡	大型　4 台 身障者 3 台	1/2～12/28	9:15～17:00	

(3)景観

【園内の優れた景観】

- 龍仙湖を中心とした広がりのある空間の「海」ゾーン、照葉樹林を中心とした深山幽谷的雰囲気の「山」ゾーン、広場を中心としたにぎわいのある「里」ゾーンの三つからなる、変化にとんだ景観。
- 要所に巨石が配されたダイナミックな景観。

【公園内から見える周辺の景観】

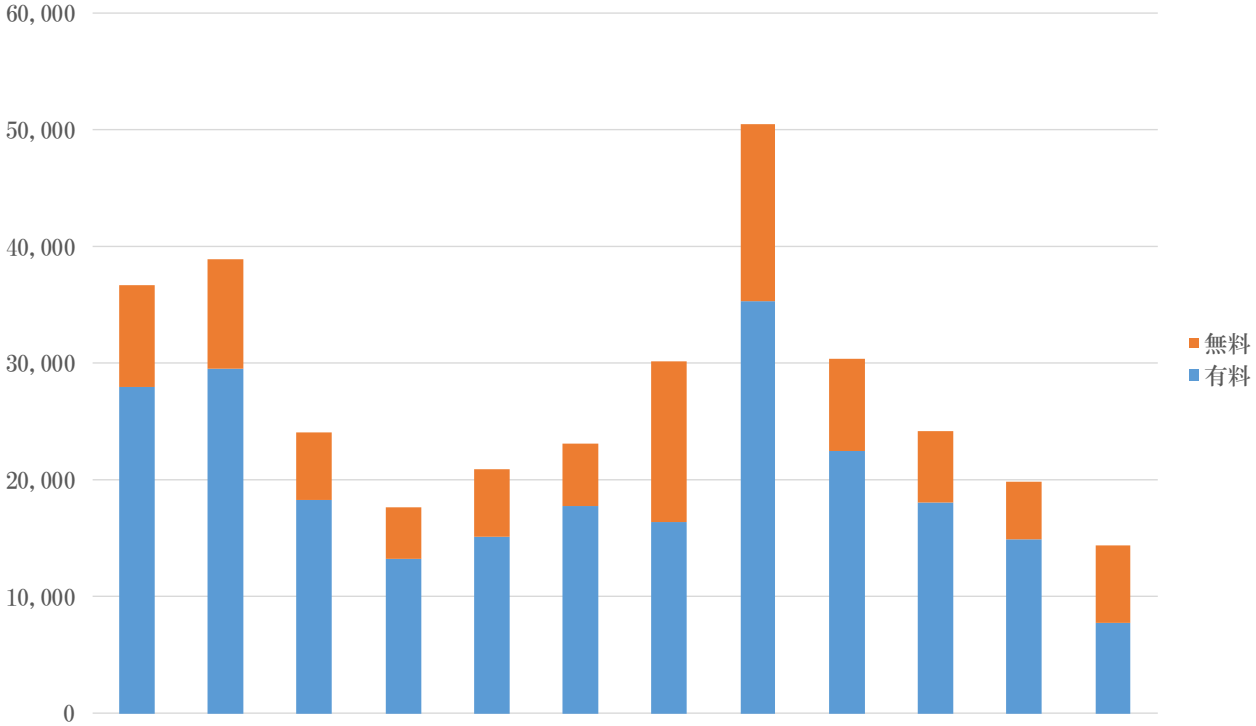
- 都市の中にあるため、周辺には高層ビルが見えるが、庭園内では、視線を低く保って非日常の景色を楽しむことができるよう整備時に配慮を行った。

1-6.利用状況

（1）利用実績

【日本庭園】毎年 30 万人ほどの利用がある。

（令和元年度入園者数）



月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
有料	27,983	29,608	18,243	13,263	15,160	17,719	16,360	35,305	22,481	18,108	14,913	7,723	236,866
無料	8,754	9,277	5,808	4,347	5,795	5,372	13,803	15,224	7,936	6,049	4,968	6,651	93,984
合計	36,737	38,885	24,051	17,610	20,955	23,091	30,163	50,529	30,417	24,157	19,881	14,374	330,850

（近年の入園者数）

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1
人数	285,957	320,341	320,335	300,027	337,986	330,850

【レストラン】毎年２万人近くの利用がある。

（近年の利用者数）

年度	H28	H29	H30	R1
人数	19,053	19,014	19,199	18,499

【ホール】毎年 4 千人を超える利用だったが、令和元年度は利用者数、使用回数共に減少した。

（近年の利用者数）

年度	H28	H29	H30	R1
人数	4,598	4,330	4,111	3,043

（近年の使用回数）

年度	H28	H29	H30	R1
宴会・披露宴	255	224	258	175
催事	40	40	40	39
合計	295	264	298	214

【蘇山荘】毎年１万人を超える利用があり、近年増加している。

（近年の利用者数）

年度	H28	H29	H30	R1
人数	13,609	12,647	16,791	19,120

【売店】毎年 4 万人ほどの利用がある。

（近年の利用者数）

年度	H28	H29	H30	R1
人数	43,835	41,346	40,297	39,107

(2)主な行事

（令和元年度）

イベント名	開催時期	主なイベント内容	期間 入園者
春を誘う　徳川園牡丹祭	4/6～21	音楽会	19,294
初夏のイベント	4/20～5/19	こいのぼり、武楽座特別講演	45,973
徳川園山車揃え	6/2	地域の山車が集結	2,378
雨を聴く　徳川園の和傘	6/6～7/7	和傘のお披露目・貸出	23,629
夜に憩う　徳川園夕涼み	8/10～14	浮灯籠、邦楽演奏会	7,306
月を掬う　徳川園観月会	9/13、14	和舟ライトアップ、夜間開園	3,207
秋のイベント	10/3～11/9	ガーデンジャズ Live、武家装束展、市民茶会	42,738
錦を纏う　徳川園紅葉祭	11/24～12/8	ライトアップ、ナゴヤカブキ特別講演、夜間開園	35,303
松を寿く　徳川園のお正月	12/13～1/13	黒門へ松飾りの展示、新春万歳	21,079
寒を遊ぶ　徳川園の冬牡丹	1/2～2/16	藁囲いした「冬牡丹」の展示	36,764
早春のイベント	2/23～3/31	流し雛	19,215

【にぎわい】

- 山車揃えなどの大きな催事は広場で行い、牡丹などの一定時期に限定されるものは、庭園内で行うこともある。
- イベント利用は、日本庭園のイメージに合うか、他の利用者が馴染めるイベントかどうか、を判断して決めている。
- 黒門市などによって親しみやすい雰囲気を作ることを心がけ、来園者に対する心理的な敷居を下げる工夫をしている。
- イベントの実施には、公園管理者によって適切な管理ができる体制を整えて実施している。

【行為許可】

年間を通じてさまざまな用途で行為許可の申請を受付している。

（令和元年度）

内　容	受付数
庭園式結婚式	59
自動車図書館	7
その他	13
合計	79

(3)利用者の意見

公園に関する意見・要望は、年 2 回のアンケートのほか、徳川園ガイドボランティアを活用したモニター制度によって収集している。

【利用者アンケート】

- ボランティアガイドがついたため深い意図が良くわかった。
- 園内やトイレにゴミ箱を設置してほしい。
- アクセスが分かりづらい。(大曽根駅からの道が分かりづらいから分かりやすい看板を出してほしい。)

(4)利用・運営上の課題

- 庭園内の園路は入り組んでいるため、サイン等で誘導するのが難しい。
- 外国からの来園者は全体(25 万人)の 10%程度(主にアジア圏から)と思われるが、語学のできるガイドの養成等は行っていない。(現状は、通訳を連れての来園が多い。)
- 結婚式や成人式の前撮り希望者が増加しているが、一般来園者への影響を考慮し、オーバーユース対策の面からも、1 日あたりの組数を制限せざるを得ない。

(5)協働

■ ボランティア

【活動状況】

- 「東区文化のみちボランティアガイドの会」と「徳川園ガイドボランティア友の会」が、金・土・日曜日及び祝日の 10～15 時を基本として常駐のガイドサービスを行っている。(令和元年度実績:102 日で 3,393 人)平日の予約ガイドも行っている。(令和元年度実績:37 件 789 人)
- スキルアップの場を設け、学習と自主的な活動を行うことで、団体同士の交流の場にもなっている。
- 「徳川園ガイドボランティア友の会」は、活動の一環として「集い」を年 2 回(9 月、3 月)開催し、全国の日本庭園の学習など、会員のスキルアップを図っている。
- 「徳川園ガイドボランティア友の会」は、ガイド時の手引書を作成し、会員に配布している。
- 愛護会は、児童園の清掃活動を行っている。

【指定管理者によるガイドボランティアへの支援】
・ 自主運営イベントの支援や、必要に応じてガイドボランティアの募集を行っている。
・ 年 6 回、世話人会及び連絡会を通じ、会員との相互理解や情報交換を行っている。
【ボランティアの意見】

平成 25 年 11 月に、東区文化のみちボランティアガイドの会、徳川園ガイドボランティア友の会、早朝清掃ボランティア、特定愛護会にアンケート調査を行った。

（ボランティアアンケートより）

1） 徳川園の魅力について

・ 都市に緑があること。
・ 非日常を感じられる日本庭園、歴史を背景とした池泉回遊式庭園※。
・ 植物の種類が多く、四季を感じられる。特にボタン園。
・ 徳川という名前の持つ知名度。
・ いつもきれいで、ゆったりした空間。

※池泉回遊式庭園･･･江戸時代に発達した日本庭園の一様式。
池とその周囲を巡る園路を中心に作庭するもの。

2） 望まれる公園像について

・ 静寂と落ち着きが感じられる公園
・ 地域の人も観光客も、誰もが入りやすい公園
・ 車椅子でも入れて、年配の方も歩きやすい公園
・ おもてなしの行き届いた観光施設、名古屋の名所
・ 都会のオアシス

■ その他の団体との協働

「東区ときめきぷらん」の関連事業（地元に根付いた山車、地元高校の音楽イベント（若手音楽家を育てる））等、随時、様々な団体との協働事業を行っている。

1-7.公園の基本的な性格・役割

(1)特長の分析

分析ポイント

歴史・文化	敷地は、尾張徳川家大曽根下屋敷跡。 徳川園内に蓬左文庫があり、隣接して徳川美術館がある。
景観	公園周辺も江戸時代の武家屋敷のたたずまいが残る地域である。 日本庭園の各種構成要素、蘇山荘、牡丹･菖蒲園。
にぎわい	エントランス広場で、朝市、山車揃え等の催事が行われている。
地域の庭	牡丹園等、季節の植物が親しまれている。
自然の恵み	地域の自然を活かした緑豊かな日本庭園がある。
遊具	遊具のある児童園がある。
スポーツ施設	なし。
災害対応力	広域避難場所に指定されている。
活動団体	ボランティア活動が積極的に行われている。
民間活力導入状況	レストラン、喫茶、売店、自販機がある。

(2)公園経営の現況評価

公園経営の現況評価	
評価基準	
評価0	ー
評価1	部分的に不足している
評価2	標準的なレベルに達している
評価3	積極的に取り組んでいる、高い評価を得ている

- 尾張徳川家のすぐれた文化遺産を所蔵する文化施設を有し、歴史的にも由緒がある、名古屋にとって貴重な歴史文化拠点。
- 季節の催事に加え、毎年 6 月の天王祭に広場に 5 輌の山車が一堂に会する「山車揃え」の開催、「歩こう！文化のみち」催事への参画など、地域連携催事の場となっている。
- 日本庭園の来園者数は開園から増加しており、レストラン、ホール、婚礼前撮りの撮影の利用も多い。

■課題

- 指定管理施設と複数の管理許可施設があり、運営事業者が異なるため、庭園と収益施設を一体的に活用した催事・広報・演出など、徳川園全体の魅力アップに向けたコンテンツに取り組みにくい。
- 施設（木橋やトイレなど）の老朽化が進み、修繕や更新が必要になっている。
- レストラン、喫茶は予約で貸し切りの状態が多く、来園者が利用できない日がある。
- 日本庭園の維持管理や来園者サービスの質の向上のため、長期的な人材育成が必要。

2.めざすべき姿と取り組みの方針

2-1.公園がめざすべき姿

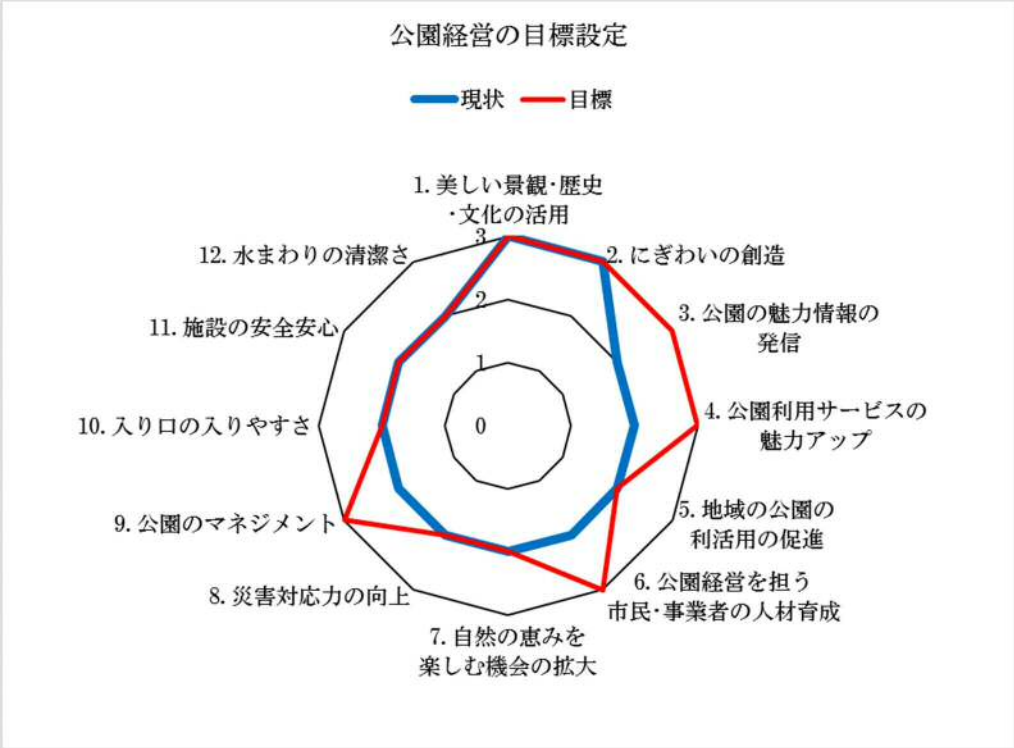
（1）めざす公園像

近世武家文化を中心に世界に発信する
歴史文化拠点である公園

- 多くの文化遺産を有効に活用し、市民を始め広く世界に向けて、その文化的価値を発信する公園。
- 徳川美術館とともに、近世武家文化を主とした、歴史性を体感できる公園。

2-2.取り組みの方針

(1)公園経営の目標設定



近世武家文化を中心に世界に発信する歴史文化拠点である公園をめざし、

徳川園の歴史文化拠点としての魅力向上と歴史的環境の維持向上を図るため、

今後 10 年間に重点的に取り組む項目を以下とする。

■重点的な取り組み項目

・レストラン等の収益施設と庭園の一体的な運営により、双方を連携させた戦略的な取り組み(催事、広報、演出)を更に強化する。(目標１，２，３，４)

・老朽化した施設の修繕等を民間事業者の収益の一部を活用して実施し、公園の魅力を高め、かつ市の支出を削減する。(目標９)

・新たな便益施設等を設置することなどにより、飲食施設の貸し切りの状態を緩和し、来園者へのサービスを向上する。(目標４)

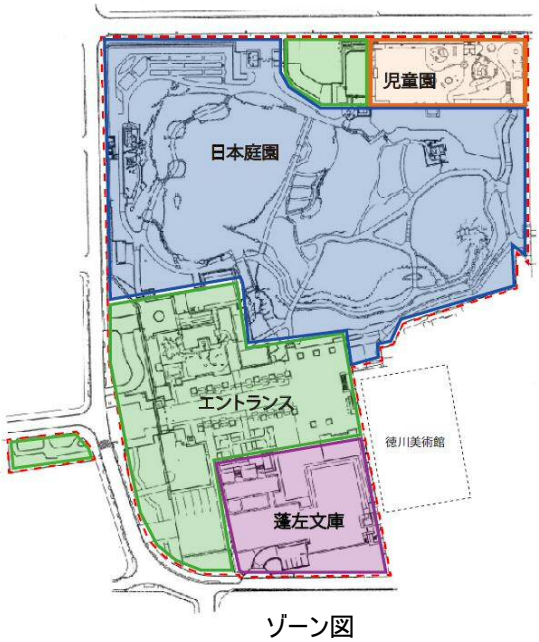
・長期の事業とすることで、運営計画が立てやすくなり、事業者の投資を促すとともに、計画的に人材を育成する。(目標６)

指定管理者制度、許可制度のメリットを活かして、公園経営的視点に立った公園の管理を行うとともに、利用者や近隣住民の声を大切にしながら、安全･安心や環境への取組み等にも考慮して、効果的・効率的な管理運営を行う。

重点的な取り組み項目と、ゾーン別特性及び各取り組みの方針を踏まえ、民間事業者のアイデア、ノウハウ、資金を活用し管理運営を行う。

(2)ゾーン別特性

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーンごとの管理運営方針を定め、各ゾーンの特長を際立たせて効果的な予算の執行等を図るうえでの基本的な方針とする。



ゾーン図

【日本庭園】

矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、既存の照葉樹の森、立体的に迫る岩組みが、日本の自然風景を凝縮したような「池泉回遊式」の大名庭園として表現されており、作庭の趣旨を十分尊重し日本庭園の品格を落とさないきめ細やかな管理運営により、来園者が大名庭園の文化に親しみ、蓬左文庫および徳川美術館での展示にも興味をつなげるようなエリアとする。

【蓬左文庫】

蓬左文庫は、尾張徳川家の旧蔵書を中心に和漢の優れた古典籍を約 12 万点所蔵する公開文庫である。蔵書の閲覧のほかに、隣接する徳川美術館と連携して、武家の学問と教養など、近世武家文化をわかりやすく紹介する展示や、徳川美術館・日本庭園と連携した講演会などを企画開催するエリアとする。

【エントランス】

徳川園は、都市公園内の日本庭園、蓬左文庫、および隣接する徳川美術館が、それぞれ異なる施設管理者により運営されているが、近世武家文化という共通テーマに関連するイベント等を実施しており、エントランスの広場は、その核となるエリアである。三位一体となり、利用者の立場に立った情報発信を行うエリアとする。

【児童園】

近隣に広い面積を有する公園が少ないことから、常時、多くの子どもたちに利用される児童園である。利用頻度が高いことから、遊具の劣化等に留意し、安全管理を確実に行うことにより、安心して遊べる広場とする。

(3)維持管理の方針

園地や植物の管理については、当初の植栽意図を踏まえ、各植物の特性に配慮したうえで、適正に持続・育成するよう必要な管理を行う。庭園施設及び景観の維持に努め、入園者の満足度を高める。

施設や設備は、利用者が快適かつ安全に利用できるよう、各種施設の位置、機能、特性を十分に把握したうえで、常に清潔に保ち、機能を正常に保持するため、各施設に応じた年間管理計画を立て、点検・管理を行う。

無料区域であるエントランスや児童園においては、来園者が快適かつ安全に利用できるよう清潔に保つとともに、施設の傷みや不具合の防止に努める。

(4)景観形成の方針

徳川園の池泉回遊式の日本庭園は、この地が二代光友の隠居所である大曽根下屋敷の跡地であったことや、近世武家文化を表現した作庭の意図を理解し、歴史文化拠点にふさわしい質の高い庭園としての景観を維持する。

黒門、蘇山荘、脇長屋、塀については、その周辺の美観も損なうことのないよう留意する。

(5)運営管理の方針

「徳川園整備基本計画（平成10年度）」、「徳川園整備基本設計書（平成11年度）」、「名古屋市歴史まちづくり戦略（平成23年7月）」、「名古屋市歴史的風致維持向上計画（平成26年度）」等関連する計画を踏まえ、徳川園の歴史文化拠点としての魅力向上、歴史的環境の維持向上を図る管理運営を目指す。そのために、以下のア～キを定める。

ア.入園者の意見を広く聴取し、入園者が安心して気持ちよく利用できるようきめ細やかなサービスを提供し、季節に応じた演出や行事を行う。

イ.来園者に対してガイドボランティアによる園内ガイドのサービスを行っているが、徳川園ガイドボランティアの人数が少なくなった場合には、適宜、募集を行い、必要な知識を習得するための養成講座を開催する。

ウ.徳川美術館や蓬左文庫と連携・連絡をさらに密にし、効果的に広報、宣伝、ＰＲ、催事等を実施し、入園者の増加をめざす。

エ.地域住民に古くから親しまれてきた公園であり、地域の誇りともされてきた施設であることから、今後も愛され利用されるような施設をめざす。

オ.徳川園の施設は、近世武家文化に関しては我が国随一の施設であり、特に海外からの来客も多いことから、名古屋について好印象を持ってもらえるような案内施設、飲食施設、ショップなどの充実を図る。

カ.庭園とレストラン等の収益施設の一体的な管理運営により、集客のための広報、催事の実施による徳川園の歴史文化拠点としての魅力向上を図る。

キ.蘇山荘などの歴史的建造物や日本庭園の景観や情緒、施設を活用し、飲食サービスなどで来園者が徳川園らしい歴史性を体感できるよう、サービス内容の充実を図る。

(6)連携・協働の方針

徳川美術館、蓬左文庫とは「調整会議」の場において、情報交換や課題の解決に向けての意見交換を充実させるなど三位一体となった運営協力に努める。また、共通のテーマによる共同展示・共同イベントの開催や、共同広告の掲出など集客力の向上につながる取り組みを行う。

市民団体や企業との連携を進め、地域に根ざした公園を目指した管理運営を行う。現在、徳川園で活動しているボランティア団体のほか、市民等との協働事業を実施する。

ボランティア活動の継続・充実を図り、公園をボランティアメンバーや市民のコミュニティの場（地域のオアシス）として活用する。

■学区との連携

・ イベントの前には学区連絡協議会等に出席するなどして、告知とＰＲへの協力を依頼する。
・ 学区単位での定期入園券のまとめ買いの案内を行う。

■文化のみちイベントへの参加

・ 東区内で毎年 11 月 3 日に開催される「歩こう！文化のみち」イベントに参加し、協力するとともに園内において関連イベントを開催する。

(7)改修・再整備の方針

更新や改修が必要な施設（木橋やトイレなど）は、レストラン等の収益施設の収益還元も活用し計画的に対応し、本市の財政支出の削減を図りつつ、徳川園の歴史的環境の維持向上に努める。

その他、公園の安全・魅力向上のために必要な場合は、改修を行う。

(8)災害対応の方針

「名古屋市地域防災計画」「震災に強いまちづくり方針～名古屋市防災都市づくり計画～」に基づき、広域避難場所としての機能を確保する.

火災、地震、風水害等の防災・災害対応マニュアルをあらかじめ作成し、発災時には、利用者の安全確保・避難誘導に努め

徳川園管理運営方針

パークマネジメントプラン

平成 26 年 8 月 策定

令和 2 年 10 月 改定

名古屋市緑政土木局